研修会 2017

里山の隣人・タヌキとノウサギの生態

米澤理雄（船橋市）

日　時：2017 年 11 月 18 日（土）10：00～14：20　天気：曇り時々小雨
場　所：大町会館（市川市）
講　師：斎藤　昌幸先生（山形大学農学部助教）
参加者：指導員 14 名、森のボランティア 11 名、合計 25 名
担当指導員：米澤理雄

ノウサギ＝　英語で hare ヘアという。巣穴は掘らない、単独性でカイウサギに比べ、肢や耳が長い。普通ウサギはラビットと言うが、ラビットはアナウサギ（カイウサギ）の事を意味する。南方では一年を通じて繁殖、年に3～5 回の出産、一度に 1～4 頭程度が生まれる。授乳は一日一回深夜に 2 分程と雑な子育てだが、子の成長は早い。生後 8～10 か月で性成熟し、夜行性、乱婚である。寿命は 1 年程度で最大でも 4 年以下だと考えられている。草食性で 150 種以上の植物が餌、一日当たり 200～500g程度食べる。消化過程の一つとして意図的に軟フンを出し、自分で食べる（糞食）。一年未満の死亡率が高いが、たくさん産んで生き残る戦略を取っている。

タヌキ＝東アジアにのみ分布する哺乳類（珍獣）、近年ではヨーロッパに外来種として分布を広げている。一夫一妻制でペアは通年行動を共にする。晩秋から春に交尾し、晩春から初夏に4～6頭出産する。オスが積極的に子育てに参加（イクメンの走り）し、雌より巣に滞在する時間が多い。子タヌキは 30～50 日親に付いて回り、その後 1 か月で親から離れていく。オスは特に遠くへ行くため、秋に車に轢かれて死ぬタヌキが多い。タヌキは溜め糞と呼ばれる複数の共同トイレを利用することがある。家族内、その他の個体間の情報交換機能があると考えられている。寿命は7～8年。食性はその場にあるものを食べる雑食性、主に果実、無脊椎動物、小型脊椎動物を食べる。植物質の物は年中食べ、夏～秋は昆虫、ミミズ類、郊外や都市近郊では柿や銀杏が秋の重要な餌で、しばしば魚類、鳥類、小型哺乳類、あるいはそれらの死体を食べる。行動圏は 10～610ha と季節、場所、餌の量で大きく変わる。

大町教育の森の観察＝3 か所の溜め糞場を見て廻る。1 か所は糞が消えていたが周辺は、かすかに獣道が見える。古くなった溜め糞（柿の種あり）を掘ると、小さい穴があり、そこにメタリックなブドウ色をしたセンチコガネがいた。（記：米澤）

研修会の会場

溜め糞を確認

溜め糞を掘る